



あなたも看護研究に挑戦しませんか？

2022 年度
地域課題研究 公募要領



公立大学法人 新潟県立看護大学
看護研究交流センター地域課題研究開発部門

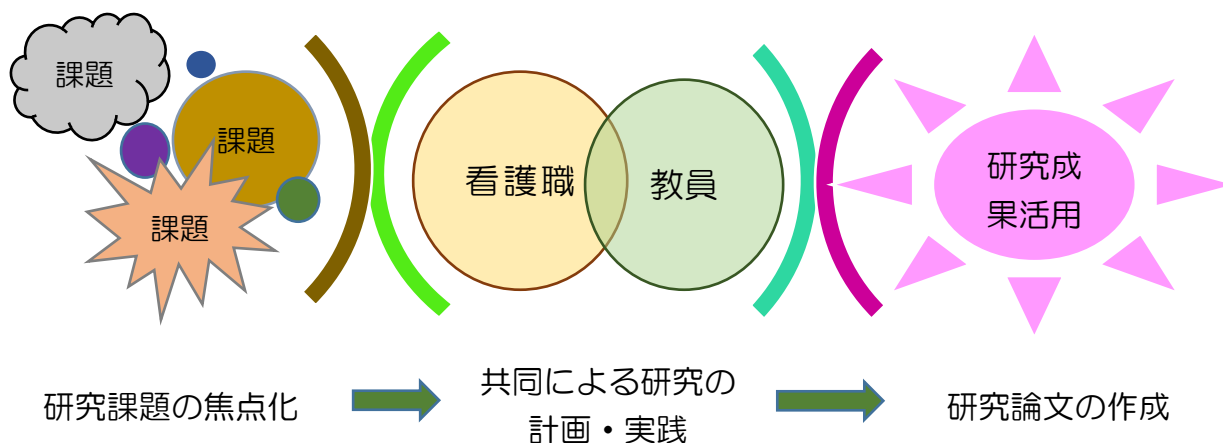
看護職として働くなかで、感じる疑問や不安・・・ どのように解決しようとしていますか？

- ★ この看護援助根拠は何だろう。他の病院では、どうしているのだろうか？
- ★ 収集しているデータを活用するのはどうすれば良いか？
- ★ いま行っている援助方法以外に、患者さんの苦痛を緩和する方法はないのだろうか？
- ★ 安全は大切。でも、できる限り身体拘束はしたくない・・・
こんな葛藤をもっているのは私だけではないはず。どのように変えていけるだろう？

現場における疑問や不安の多くは「看護研究」として取り組むことで、解決の糸口を見いだすことができます。

「看護実践」と「看護研究」は、看護の質向上に向かって、車の両輪を担っています。

「研究は難しい」と一歩踏み出せない方にも、
「もっと根拠を深める研究に取り組みたい」と思っている方にも、
本学教員が看護研究の全プロセスをサポートします。



【目的】

新潟県内の保健・医療・福祉に携わる看護職（看護実践家）を対象に地域（県内）の看護実践上の問題解決や課題への取組みに向けた研究（研究的取組み）を公募し、看護実践者と本学教員が共同して取組み、県内の看護実践現場における看護研究の活性化と看護実践の質の向上を目指します。

【募集テーマ】

新潟県内の看護実践上の問題・課題に関する研究課題（テーマ）全般

【対象者】

新潟県内の看護実践に携わる看護職とし、本学教員（教授、准教授、講師、助教のいずれか）が共同研究者となることを条件とします。予算執行管理等は、本学教員（共同研究者）が担います。
※大学院生は、公募の対象としない。

研究進行スケジュール

【研究期間】

2022年4月～2023年9月末

【成果報告】

- ① 研究発表前に報告書（研究概要は発表会用抄録を兼ねる）提出
- ② 地域課題研究発表会にて報告（2023年9～10月）

【助成額】

1件あたり10万円を上限とします。

【公募期間】

2021年9月1日(水)～11月30日(火)

【応募方法】

下記の手順となります。

1. 申請書1「研究の動機」(P4 **様式1**) の提出

郵送またはメールにて看護研究交流センター（以下“センター”）に提出してください。書式は看護研究交流センターホームページ（<https://www.nirin.jp/>）からダウンロードできます。

申請者の押印が必要です。（郵送、来訪、PDF加工しMail添付も可能です）

【共同研究者として依頼したい教員が明確な場合】

⇒希望する共同研究者名をお書きください。その際、教員が了解している場合は、その旨も書き添えて下さい。P20～P21に教員の研究領域、また研究テーマを掲載しています。参考にしてください。

【共同研究者の人選を一任する場合】

⇒P4 申請書1の※5に“看護研究交流センターに一任”と記入してください。

2021年	9月1日～	公募開始
	11月30日	申請書提出〆切(様式1)
2021年	12月初旬	審査
		学内共同研究者決定 (採択結果通知)
	12月20日	研究リエンション(リモート)
2022年	1～3月	研究計画書作成
2022年	3月18日	申請書・研究計画書提出 〆切
		(様式2-①, 2-②, 2-③)
		研究助成額決定・通知
2022年	4月1日～	研究開始
2023年	9月中旬	研究報告書提出 (発表会資料を兼ねる)
	9月～10月	研究発表会

※採択

申請していただいた研究はできる限り採択し、研究支援を行う方針としています。
原則として、1施設につき3件を限度とし、過去に本学地域課題研究費助成金の交付を受けていない研究メンバーを優先します。

※学内共同研究者の決定

審議の上、12月中旬までに共同研究者を決定し、採択の決定と共に通知します。

※オリエンテーションへの参加

**採択された方は、12月のオリエンテーション（リモート開催）への参加を予定してください。
オリエンテーション実施日は、令和3年12月20日（月）13:30～約1時間程度。**

オリエンテーション終了後に共同研究者と打ち合わせの時間を持ちます。
オリエンテーションはリモート開催となります。インターネット環境、パソコン等をご準備ください。詳細は、Mailにてお知らせいたします。

※研究計画書の作成

オリエンテーション終了後より、共同研究者と共に
研究計画書等(P5～P7 **様式2-①** **様式2-②**)の作成を行ってください。

2. 申請書2(**様式2-①**)、研究計画書(**様式2-②**)の提出

上記書類は **2022年3月14日（月）までに共同研究者の教員にMail送付し、学内教員は
3月18日（金）15:00までに押印のうえ看護研究交流センターに提出してください。**

教員は申請書2(**様式2-①**)に押印が必要です。

※審査後、「地域課題研究費助成金交付決定」を通知します。

【申請内容変更および研究の中断について】

変更 採択後、研究メンバー、研究課題名（テーマ）、研究方法等の申請内容に変更がある場合は、学内共同研究者を経由し、申請内容変更届 **様式3** と変更部分を記載した **様式2-①** **様式2-②** を提出してください。

中断 採択後、止む無く、研究を中断せざるを得ない場合は、学内共同研究者の了解のうえ、地域課題研究辞退届 **様式4** を提出してください。

この場合、これまでにかかった研究経費を含む助成金全額を返還するものとします。

3. その他

研究者の方々に、本学のどこカレメイト（無料）に登録していただきますのでご了解ください。**様式2-③** になります。

提出先 公立大学法人新潟県立看護大学 看護研究交流センター
〒943-0147 上越市新南町 240 番地
※直接持参される場合は、看護研究交流センターまで
連絡・問合せ先
看護研究交流センター(丸山) 電話・FAX：025-526-2822
E-mail：nirin@niigata-cn.ac.jp

2022 年度地域課題研究申請書 1 「研究の動機」

施設名 _____

氏 名 _____ ㊤

職 種 _____

Mail (常に連絡可能なアドレス)

<p>※ 1 研究テーマ (考えているテーマを記載)</p>	
<p>※ 2 研究テーマとする動機・理由 (自分の「本音」を記載してみ ましょう)</p>	
<p>3 研究方法 (考えている方法)</p>	
<p>※ 4 研究体制 (一緒に取り組むメンバー等)</p>	
<p>※5 希望する共同研究者 (本学教員名、または領域)</p>	

※ 欄の記入は必須

2022 年度 新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究申請書 2

年 月 日

新潟県立看護大学
看護研究交流センター長 様

申請代表者

所属機関

所属部署名

ふりがな
氏名

住所又は

所在地

電話番号

メールアドレス

学内共同研究者

氏名 _____ (印)

このたび、下記のテーマ名で別紙研究計画のとおり申請します。



記

1. 研究テーマ名

		不採用時の評価の開示	1. 希望	2. 希望なし
申請代表者				
研究テーマ				

研究メンバー	氏名	所属	役職
	申請代表者	連絡先：	
	1.		
	2.		
	3.		
	学内共同研究者	領域	
	1.		
	2.		

研究経費

品名（数量・単価含む）	金額	必要とする理由
〈旅費〉	 実際の金額を調べて記入して下さい。 	
〈需用費〉		
〈役務費〉		
〈報償費〉		
合計金額 _____ 千円 ※（合計金額の千円未満は切り上げ）		

研究目的（研究の背景、研究の目的、予想される結果と意義、関連する研究の中での当該研究の位置づけ）

研究計画の概要（研究目的を達成するための研究計画・方法）

倫理的配慮

計算機資源利用申請書（一般用）

太枠内のみ記入

新潟県立看護大学 情報ネットワーク特別委員長 様

私は、新潟県立看護大学情報管理・倫理規程等を遵守することを誓い、利用を申請します。
また、同規程等に反した場合は、速やかに接続を取り消します。

		申請日	令和 年 月 日		
利用申請者	氏 名	⑩			
	勤務先 (TEL)				
ID (半角英小文字)					
<学外接続欄>					
申請受付日	令和 年 月 日	学外接続受付番号		担当者	
備考					

計算機資源利用申請承認書

様					
上記利用申請について、新潟県立看護大学情報管理・倫理規程等に従うことを条件に承認します。					
令和 年 月 日					
(利用期間：令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日)					
新潟県立看護大学 情報ネットワーク特別委員長					
申請受付日	令和 年 月 日	受付番号		担当者	
学外接続受付番号					
ID (半角英小文字：8字以内)					
パスワード (半角英数字混合：16字)					

*太線枠内のみ記入してください。ID/パスワードの設定は規定に合わせご記入下さい

*名字のみは避け、IDとパスワードは同一にしないでください。IDは、原則として変更できません。

様式3

2022 年度 新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究
申請内容変更届

年 月 日

新潟県立看護大学
看護研究交流センター長 様

(申請代表者)

所属機関

氏名

このたび、別紙のとおり申請内容を変更しましたので報告します。

記

1. 採択番号

2. 研究テーマ名

3. 変更内容

1) 変更の内容

(例) 研究メンバー追加、 研究テーマ、 研究経費内容等

[]

※添付資料として下記を作成する。

様式2-① 及び 様式2-②の研究計画書右上に(申請内容変更届用)と追記し、変更した内容の箇所のみを記載する。

2) 変更理由

[]

様式4

地 域 課 題 研 究 辞 退 届

年 月 日

新潟県立看護大学
看護研究交流センター長 様

(申請代表者等)

所属機関

職種

氏名

印

学内共同研究者名

印

この度、来る 年 月 日をもちまして、辞退したいのでお届けします。

<理由>

記入要領

2022 年度 新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究 研究計画書作成・記入要領

看護研究交流センター

研究計画書様式 2-②は、新潟県立看護大学看護研究交流センター（以下「センター」略）の地域課題研究費の交付を申請しようとする者が、あらかじめ当該研究計画に関する概要を記入し、センター長あてに申請するものであり、地域課題研究費助成金審査の資料となるものである。

下記の点に留意した上で、指定された研究計画書様式を使用し、共同研究者である本学教員の指導の下、作成すること。所定の様式の改変は認められない。

なお、審査の結果は「地域課題研究費助成金決定」をもって通知する。

研究のメンバー・テーマ・方法等の申請内容に変更があった場合は、速やかに申請内容変更届様式 3 と研究計画書（申請内容変更届用）を提出すること。なお、研究のテーマ・方法の変更内容によっては変更が認められない場合がある。

記

注意

研究メンバーは新潟県内の看護職と本学の教員で構成する。申請代表者は新潟県内の看護実践に携わる看護職とし、本学の教員（教授、准教授、講師、助教のいずれか）を共同研究者とする。申請できる研究テーマ数は 1 件に限るものとする。

1. 「学内責任者」は 1 名とし、研究メンバーに複数の本学教員がいる場合も同様とする。
2. 「所属」欄には、研究計画書作成時点での所属・職を記入する。
3. 「研究経費」の欄には、研究計画に基づいて、使用内識別にそれぞれ記入し、総計を記入する。予定予算を下回することは可能だが、上回することは認められない。
4. 各経費内訳の明細は、地域課題研究オリエンテーション後、資料を参照の上、項目ごとに「必要とする理由」とともに研究遂行のための経費として実際の金額を調べて記入する。但し、旅費は申請額全体の 6 割を超えない範囲とする。
5. 研究採択後止む無く、研究を中断せざるを得ない場合は、地域課題研究辞退届様式 4 を提出する。なおこの場合、これまでに掛かった研究経費を含む全額を返金するものとする。

記載例 様式2-②

新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究 研究計画書

		不採用時の評価の開示	① 希望	2. 希望なし
申請代表者	新潟 花子			
研究テーマ	××における〇〇に関する実態調査			

研究メンバー	氏名	所属	役職
	申請代表者 新潟 花子	〇〇会△△病院 看護師 連絡先：※※-□□-××××	研究代表者
	中越 花子	〇〇会△△病院 看護師	研究メンバー
	高田 桜	※メンバーが多い場合は、枠内で罫線を増やして記載する 看護師	研究メンバー
	学内共同研究者 上越 太郎	新潟県立看護大学 講師	

研究経費

品名 (数量・単価含む)	金額(千円)	用途
〈旅費〉 △△病院―県立看護大学 (車) 〔@22×160 km (往復)+ 高速代 4,000〕 ×3回	23千円	研究指導を受けるため
〈需用費〉 A4 コピー用紙, 封筒 書籍代 (@2,200×2) (@2,800×1)	6千円 7.2千円	質問紙調査に使用 参考文献の購入に使用
〈役務費〉 郵送料 (@120×300, @99×100 テープ起こし(派遣) (@1,700×4 時間)	46千円 7千円	質問紙送料・返送料として 質問紙調査集計作業の人員確保のため
〈報償費〉 講師料 (@4,700×2 時間)	10千円	〇〇〇研修の講師料とする
(※@は単価)	* 合計金額の千円未満の端数は切り上げる	合計金額 <u>100</u> 千円

研究目的（研究の背景、研究の目的、予想される結果と意義、関連する研究の中での当該研究の位置づけ）

※所属施設内で生じている課題の提示だけでなく、研究テーマに関連する既存研究も調べ、研究の必要性が高く、地域の看護実践上の問題解決の取り組みとして寄与できる研究テーマであることを述べる。

※研究期間内で、何をどこまで明らかにするのかを明確に述べる。

研究計画の概要（研究目的を達成するための研究計画・方法）

- 研究の対象・場所、データとその収集方法、分析方法を項目ごとにできるだけ具体的に記載する。

倫理的配慮

※研究遂行にあたり必要な倫理的配慮を明記する。原則として、本学または申請代表者の所属機関等の倫理委員会の承認を受けて実施すること。

1. 研究報告書作成の基本

- ・原則として研究代表者が作成し、学内責任者である教員の確認を受け、発表前 9 月中旬までに看護研究交流センターに提出する。
- ・報告書は、研究実施終了年度の看護研究交流センター活動報告書に掲載するとともに、本学リポジトリにて公開する。また、報告書 2-2 研究の概要は、発表会の参考資料として使用する。
- ・報告書は所定の様式を用いて作成する（所定の様式を変更してはならない）。
- ・研究課題名は 12 ポイント、本文活字は 11 ポイント、日本語用フォントは MS 明朝、英数字用フォントは Century とする。
- ・句読点は「,(コンマ)」と「.(ピリオド)」に統一し、横書き、現代かなづかいとする。
- ・外国人名、地名などは原綴を使用する。度量衡の単位は国際単位の表記に従う。
- ・欧米文字、数字は半角文字とする。

2. 研究報告書記載要領

- 1) 所定の様式に従い、「研究課題名」「研究代表者の氏名・所属」「研究分担者の氏名・所属」「学内責任者の氏名」「研究費助成金執行報告」「研究成果の概要」「キーワード」「研究成果の公表」を記載する。
- 2) 「研究成果の概要」は 1200 字から 1600 字とする。研究プロセス（研究の目的と意義・方法・結果・考察・結論）に基づきわかりやすく記述する。
- 3) 「キーワード」は 3～5 の範囲とする。
- 4) 「研究成果の公表」は 100 字以内とし、今後の予定を含めて記載する。

地域課題研究助成の報告 2-1 原稿作成見本

看護研究交流センター 地域課題研究助成報告

(↑左寄せヘッダー、10ポイント、上からのヘッダー位置 10mm)

余白 20mm

2-1

令和○年度地域課題研究助成による報告書 (12ポイント)

研究課題名

「」

1. 研究代表者及び所属

代表者氏名： (所属：)

2. 研究分担者氏名・(所属)

3. 学内責任者

新潟県立看護大学 氏名

4. 研究助成金執行報告

(円)

予算額					
	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額					

5. 研究成果の公表 (100字以内)

研究概要は裏面へ

余白 20mm

余白
20mm

余白
20mm

地域課題研究助成の研究報告書 2-2 原稿作成見本

看護研究交流センター 地域課題研究助成報告
(↑左寄せヘッダー、10ポイント、上からのヘッダー位置 10mm)

余白 20mm

2-2

表題 (12ポイント)

○発表者名、共同研究者名 (10ポイント)

学内責任者名

所属施設名 (10ポイント)

キーワード (3～5個)

研究概要

- ・本文 10ポイント 1200～1800字程度 1ページ内に収める
- ・目的、方法、結果、考察、結論の順に簡潔に記載する
- ・倫理的配慮は必ず記載する
- ・図表は掲載可だが最低8ポイントとする
- ・利益相反について、「令和○年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究助成を受けて実施した」旨を明記する。また、その他の利益相反がある場合も追記する

余白 20mm

余白 20mm

余白 20mm

— 参考 —

(現在進行中の研究)

年度	研究代表者	所属	学内共同研究者	研究テーマ
令和3年度地域課題研究	齊藤千恵子	厚生連糸魚川総合病院	石田 和子	A 病院の新人看護師がリアリティショックを乗り越えた要因
	清水 博美	新発田リハビリテーション病院	原 等子	多職種協働で立ち上げた認知症ケア委員会の取り組み
	本田ひとみ	県立リウマチセンター	酒井 禎子	関節リウマチ患者における手洗いの実態調査
	本山 和樹	長岡赤十字病院	小林 綾子	虚血性心疾患を併発した糖尿病患者の療養生活への思い
	皆川みどり	長岡赤十字病院	樺澤三奈子	外来透析に通院する高齢患者の透析継続における困難と取り組み
	赤川 美穂	長岡赤十字病院	高橋 絹代	臓器提供時の各段階における必要な看護を明らかにする ～家族への看護を振り返って～
	石川 真彩	さいがた医療センター	安達 寛人	精神急性期病棟における睡眠改善に向けた取り組み
	土屋 尚	新潟労災病院	酒井 禎子	整形外科疾患を持つ患者の就労支援に対するニーズ
	佐藤予右子	上越地域医療センター病院	小野幸子 河原畑尚美	高齢患者の終末期における治療と人工栄養に関する意思決定支援の現状と課題 —地域包括ケア病棟に勤務する看護師に焦点を当てて—
	水澤三津江	新潟労災病院	大久保明子	当院の退院支援の評価からみえた課題 —退院支援評価表を分析して—
	内田絵里奈	県立中央病院	酒井 禎子	三次救急を担うA病院におけるがん放射線療法看護の現状
	島田 玲児	新潟市民病院	小野幸子 河原畑尚美	三次救急病院に入院する高齢者に生じる倫理問題に介入する老人看護専門看護師の活動
齋藤真樹子	総合リハビリテーションセンターみどり病院	前川絵里子	人生最終段階と説明を受けた患者の家族などの代理決定者の葛藤	

(現在進行中の研究)

年度	研究代表者	所属	学内共同研究者	研究テーマ
令和2年度	岡崎 園美	厚生連 佐渡看護専門学校	山岸美奈子	母子保健に関わる多職種が望む次世代の小児看護師に備えてほしいこと
	木村 恵美	長岡赤十字病院	東條 紀子	当院救急外来看護師による入院せず帰宅する患者に対する指導の現状と課題
	田巻 康弘	介護老人保健施設 ケアホーム三条	永吉 雅人	手洗い研修により介護職員の手洗いが習慣化するかの検証 ～A 介護老人保健施設における感染予防への取り組み～
	南雲 敬子	長岡赤十字病院	前川絵里子	長岡地域輪番病院における、ACP 認知度に関する実態調査
	松井ルミ子	新潟県立中央病院	岡村 典子	開心術後の患者に対する早期リハビリテーションの効果
	涌井 幸恵	新潟県立中央病院	高柳 智子 相澤 達也	3次救急医療施設における早期警告スコア (National Early Warning Score : NEWS) 活用の有用性についての検証

(令和2年度の発表会中止のため、R3.10.2 発表予定の研究)

年度	研究代表者	所属	学内共同研究者	研究テーマ
令和元年度	霜垣美由紀	北里大学 保健衛生専門学院	酒井 禎子	新人看護職員における夜勤に対する不安
	塩谷 幸祐	さいがた医療センター	境原三津夫	アロマ精油の吸入が交感神経・副交感神経に及ぼす影響
	長井 卓也	新潟大学地域医療教育 センター魚沼基幹病院	酒井 禎子	新人看護師対象「急変対応シミュレーション」研修受講後の成果
	西山まゆみ	長岡赤十字病院	石田 和子	化学放射線療法を受けた咽頭癌患者の栄養管理への介入～入院時から退院後を見据えた関わりを通して～
	渡辺 沙織	さいがた医療センター	永吉 雅人	A 病院における、暴力対応知識の現状把握 —「患者からの暴力に対する対応知識チェックリスト」を用いて—
	小林 恵子	長岡赤十字病院	中島 通子 西田 絵美	在胎週数 25 週未満で出生した児を持つ母親のニード—出生直後から FCC 介入を受けた母親の思い—

(終了した研究)

平成 30 年度	松矢春奈	新潟労災病院	小林 綾子	シャント作成後から血液透析導入までの患者が 外来看護師にもとめること ー血液透析導入後の患者の語りを通してー
	結城 真	長岡赤十字病院	高柳 智子	心臓リハビリテーション外来に通院困難な急性 冠症候群患者の退院後の生活状況
	小山洋恵	新潟県立中央病院	高塚 麻由 小林 綾子	ケーススタディ研修における卒後 2 年目看護師 の学びと気づき
	高橋未来	新潟医療生活協同組合 木戸病院	石原 千晶	整形外科病棟における術後せん妄対策の変化 ー術前せん妄アセスメントツールの活用を通してー
	松枝杏奈	上越総合病院	中島 通子 西田 絵美 永吉 雅人	産後の母親の精神状態とその背景の実態調査 ーエジンバラ産後うつ病質問票を用いてー
	細道奈穂子	一般社団法人新潟市医 師会在宅医療推進室	平澤 則子	N 市の短期入所生活介護施設における長期利用 者の実態と看護援助の課題
平成 29 年度	庄司なおみ	新潟大学地域医療教育 センター魚沼基幹病院	高島 葉子	「NICU におけるきょうだい面会」が家族形成 にもたらす影響に対する母親の認識
	水澤香澄	長岡赤十字病院	北村 千章	ファミリーセンタードケアによる母親の変化
	羽深朱美	新潟県立中央病院	飯吉 令枝 北村 千章	早産児を育てる母親の NICU 退院後の不安
	瀧澤由佳	上越地域 医療センター病院	内藤 みほ	A 病院看護職における手洗いの実態調査
	竹原則子	新潟県立中央病院	岩永喜久子 岡村 典子	施設に所属する看護職の社会人基礎力に関する 研究
	山井由香里	長岡赤十字病院	小林 綾子	維持透析を行う患者が透析を受け入れた要因
平成 28 年度	古市麻由子	長岡赤十字病院	飯田 智恵	慢性心不全患者が再入院に至った生活行動にお ける問題点 ー高齢者世帯の患者の自己管理に 関する語りを通してー
	中村幸恵	さいがた医療センター	永吉 雅人	A 病院における、勤務計画表作成の現状把握 ーメンバーシップの視点からー
	飯塚文恵	ライフサポート ゆう	原 等子	A 地域における在宅療養支援につなぎ支える多 職種連携教育の効果
	廣田光恵	糸魚川総合病院	岡村 典子	整形外科入院患者における尿路性敗血症発生率 低減に向けた看護への取り組み
	室岡真樹	新潟県庁 人事課	平澤 則子	中堅保健師が行う保健事業の展開における課題 ～PDCA を用いた事例検討をとおして～
	小坂智恵子	パナソニック(株) エコソリューションズ 社新潟工場	井上 智代	社員食堂からの健康情報発信により行動変容を 促す ーカリウムの効果についての情報発信を 通じてー
	三浦一二美	長岡中央総合病院	石田 和子	乳がん患者が放射線治療で受ける放射線性皮膚 炎の照射部位別経時的変化
	佐藤祐子	長岡赤十字病院	小林 綾子	B 病棟看護師の糖尿病運動療法指導の課題
	鈴木咲子	長岡赤十字病院	谷内田潤子	結核病棟における外国人患者への看護実践

新潟県立看護大学教員別専門研究分野の紹介

領域	氏 名	主な研究テーマ	
基礎看護学領域	基礎看護学	舟島なをみ	・看護基礎教育に関する研究 ・看護継続教育に関する研究 ・看護卒後教育に関する研究 ・大学における教養教育に関する研究
		伊豆上智子	・看護サービスマネジメントに関する研究 ・看護にかかわる情報の管理および活用に関する研究
		岡村 典子	・看護におけるコミュニケーション（感情活用） ・人間関係に関する研究 ・基礎看護学、看護技術学に関する研究
		川島 良子	・臨地実習指導に関する研究 ・看護技術教育に関すること
		谷内田潤子	・健康教育,患者教育に関する研究
		山岸美奈子	・新人教育に関する研究
臨床看護学領域	母性・助産	西田 絵美	・看護師のケアリングを高める教育 ・看護職者の倫理形成に関する研究 ・母性看護学/助産学のカリキュラムおよび教育方法
		八巻ちひろ	・看護職の月経随伴症状に対する保健行動因果モデルの検討
	小児看護学	大久保明子	・子どもを亡くした遺族のケアに関する研究 ・小児がんの子どもと家族のケアに関する研究 ・医療的ケア児と家族のケアに関する研究
		山田 恵子	・学校・保育施設における子どもの傷害予防教育 ・医療的ケア児と家族が安心して社会生活を営むための連携 ・救急外来で突然に子どもを亡くした親のグリーフケア
		野澤 祥子	・先天性心疾患の子どもと家族に関する研究
		伊藤ひかる	・子供と家族の精神的健康に関する研究 ・レジリエンスに関する研究
	成人看護学	石田 和子	・がん化学療法を受けている患者の有害事象の予防と対処および看護介入に関する研究 ・がん患者・家族の心理的支援に関する研究 ・女性生殖器がん患者に関する看護支援に関する研究
		高柳 智子	・脳卒中リハビリテーション看護に関する研究 ・看護師の臨床判断の解明に関する研究
		酒井 禎子	・エンド・オブ・ライフ・ケアおよび緩和ケアに関する研究 ・高齢がん患者と家族への援助に関する研究
		樺澤美奈子	・倦怠感他、がんとがん治療に関連する症状のセルフマネジメントを支える看護介入に関する研究
		小林 綾子	・糖尿病患者の看護に関する研究 ・糖尿病予防に向けた健康教育
		石原 千晶	・がん看護に関する研究
		石岡 幸恵	・がん看護に関する研究 ・乳がん看護に関する研究
		相澤 達也	・周手術期に関する研究 ・緩和ケアに関する研究
	高橋 絹代	・臓器提供における臨床の負担軽減 ・救急領域の終末期の意思決定支援	

地域生活看護学領域	老年看護学	小野 幸子	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者とその家族の看護援助に関する研究 ・医療施設・ケア施設における高齢者看護および看護管理に関する研究 ・高齢者の（最期の）看取りに関する研究 ・高齢者の人生統合を支援する看護に関する研究
		原 等子	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアに関する研究 ・高齢者の口腔機能向上・食援助・排泄援助に関する研究 ・高齢者のケアの質向上に関する研究
		河原畑尚美	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者看護学教育に関する研究 ・医療施設・高齢者ケア施設における看護実践に関する研究 ・高齢者への緩和ケア（認知症・看取りを含む）に関する研究
		大口 洋子	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のストレングスに関する研究 ・認知症介護家族に関する研究
		大倉 由貴	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者のケアに関する研究
		東條 紀子	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と家族への在宅療養支援に関する研究 ・看護基礎教育に関する研究
	精神看護学	長谷川雅美	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病者の自殺予防に関する研究 ・精神障がい者の自立支援に関する研究
		谷本 千恵	<ul style="list-style-type: none"> ・精神に障害を抱える当事者と家族に対する看護・ピアサポートに関する研究 ・コミュニティメンタルヘルスに関する研究・精神科病院における自殺対策に関する研究 ・精神障害を抱える人への園芸療法に関する研究
		佐々木三和	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食障害に関する研究 ・境界性パーソナリティ障害者に関する研究
		舩山 健二	<ul style="list-style-type: none"> ・触法や罪を犯した障がい者・高齢者の社会参加と看護に関する研究 ・薬物依存症の回復支援に関する研究 ・知的障がい児者の看護に関する研究
		安達 寛人	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雪地域で生活する精神障がい者に関する研究 ・精神科病棟の危険物・預かり物品の取り扱いに関する研究
	地域看護学	平澤 則子	<ul style="list-style-type: none"> ・難病患者家族の在宅療養支援に関する研究 ・住民主体の健康づくり活動の方法と評価に関する研究 ・コミュニティミーティングと健康な地域づくりに関する研究
		高林知佳子	<ul style="list-style-type: none"> ・家族介護者の QOL 向上に関する研究 ・地域の健康課題に関する研究 ・保健師活動に関する研究
		関 睦美	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児と家族への支援に関する研究 ・看護学生の実習での学びに関する研究
		野口 裕子	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の保健活動に関する研究
前川絵里子		<ul style="list-style-type: none"> ・難病保健に関する研究 	
久保野裕子		<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の生活習慣病を予防するための看護に関する研究 	
人間環境科学領域	社会科学	渡辺 弘之	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムのハンセン病患者への社会復帰支援に関する研究
		徐 淑子	<ul style="list-style-type: none"> ・健康現象の社会・文化的背景についての研究 ・保健行動の背景要因についての研究 ・薬物・アルコール依存症および HIV/エイズに関わる諸問題についての研究
	情報科学	中村 義実	<ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツに根ざす英語教育 ・異文化コミュニケーション論 ・アメリカ研究
		永吉 雅人	<ul style="list-style-type: none"> ・経験によって学習する強化学習とその応用に関する研究 ・化学物質過敏症に関する調査研究 ・看護師勤務計画表に関する研究
		Elderton Simon	<ul style="list-style-type: none"> ・第二言語習得 ・社会言語学 ・第二言語モチベーション ・遺伝看護
	生物・医学	境原三津夫	<ul style="list-style-type: none"> ・アロマ精油が自律神経に及ぼす影響に関する研究 ・環境が妊娠・分娩に及ぼす影響に関する研究
		堀江 正男	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能発現に関わる神経回路網の解析に関する研究
		葛城 美德	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレス顆粒形成による神経変性疾患への影響に関する研究 ・放射線照射による発がん機構に関する研究

（ 2021 年 4 月現在）

お申し込み・お問い合わせ

 公立大学法人

新潟県立看護大学 看護研究交流センター

〒943-0147新潟県上越市新南町240番地

TEL・FAX **025-526-2822**

(受付時間 平日 9 : 30 ~ 16 : 00)

メールアドレス nirin@niigata-cn.ac.jp

ホームページ <https://www.nirin.jp/>

